



■	目次	説教 わたしを砕くことは主の正しい御旨である	…… 川越 弘 …… 1
		教会の課題 受けることの幸い	…… 澤 正幸 …… 2
		旧約聖書に聴く「コヘレトの祈り 5章1節」	…… 片野安久利 …… 3
		信仰問答を学ぶ 信仰問答を歌にして	…… 桑原 政道 …… 4
		教会、この地とともに⑤ 多摩ニュータウン永山伝道所 トンネルを抜けると	…… 栗田 英昭 …… 5
		さんびかに生かされて 讃美歌に導かれて	…… 井上 泰子 …… 6
		み言葉に照らされて Our citizenship is in heaven	…… 松谷 満 …… 6
■	こいのにあ	明石大久保教会牧師就職式	…… 海前 勝彦 …… 7
		祈りは、「神様による秩序」の回復	…… 高見 早苗 …… 7
		平出 亨先生 追悼文「神の御前の謙虚さ」	…… 小野寺ほさな …… 8
		教会ニュース	…… 8



わたしを砕くことは主の正しい御旨である

(イザヤ書53章1-10節)

かわ 弘
川 越 弘

イザヤは「わたしたちの聞いたことを、誰が信じようか。主は御腕の力を誰に示されたことがあるうか」(イザヤ53章1節)と語ります。

イザヤが召命を受けた時、神から「この民に言うがよい／よく聞け、しかし理解するな／よく見よ、しかし悟るな」。「この民の心をかたくなにし／耳を鈍く、目を暗くせよ。目で見ることなく、耳で聞くことなく／その心で理解することなく／悔い改めていやされることのないために」(イザヤ6章9-10節)と命じられます。それは、エジプトの奴隷から解放したアブラハム・イサク・ヤコブの神が、イスラエルを捨てることはあり得ないと考える人々に、イスラエルの祝福を語るな、むしろ滅びを語れ、とおっしゃるからです。

イザヤの預言した時代は、ユダが崩壊した時です。3千人を超す人々がバビロンに拉致され、宗教的指導者やエルサレム高官、兵隊、職人が連れ去られて、ユダの国は機能を停止しました。ユダの王も目の前で子供たちが殺され、両目をえぐり取られ、青銅の足かせをはめられて、バビロンに連れて行かれます(列王下24章10節-25章7節)。

ダビデの後の王たちのほとんどは、神に背いて悪を行ったためにイスラエルが滅びたのです。神は人間の不正をうやむやにして、闇の中に葬り去ろうとはなさいません。ご自分の義を高くかかげるために、神に背くイスラエルを滅ぼして、神の真実をこの世界に明らかにされるからです。イザヤは、このイスラエルの敗北と挫折を、神の御心として真正面に受け止めることがイスラエルの救いである、と預言するのです。

今やイスラエルは、「見るべき面影はなく／輝かしい風格も、好ましい容姿もない。彼は軽蔑され、

人々に見捨てられ、多くの痛みを負い」(イザヤ53章2-3節)、「苦役を課せられて、屈み込み、…磨り場に引かれる小羊のように…口を開かなかった」(7節)。これが「背きの罰」の民の現実です。この現実を神の御心として真摯に認識すること、そこにしかイスラエルの救いがないのです。

このイスラエルの敗北と挫折を、真正面に受けとめて悔い改めようとするとき、その傍に「神の手にかかり、打たれて苦しみ」(4節)、「打ち砕かれて…自らを償いの献げ物とする」(10節)の方が、共にいてくださるのです。こうしてイザヤは、救い主が現れるのを、非常な渴望と感謝と感激をもって待ち望むのです。

主イエスは、罪に対する神の怒りと審きを人間が受けることは、真に正当であると承認され、「自分を砕くことは主の正しい御旨である」と認められました。ここに初めて、人間の中から神の審判を正當に認め、神のご意思に従う人が実現したのです。それゆえ父なる神は、この人の死を死のままで終わらせないで、永遠に生きる存在としてお認めになられたのです。

そして何と驚くべきことに、キリストの復活によって、わたしたちが神の前で審きを受けた者にしてくださったのです。死んで神の審きの前に入る私たちが、審きを受けた者として神の前に出るのです。パウロは「わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それはキリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです」(ローマ6章4節)と語るからです。

(沖繩伝道所牧師)